

## B09c 彗星の光度観測のアーカイブ化 — ICQ プロジェクトと日本のアマチュア

中村彰正 (久万高原天体観測館)

1970年代以前の彗星の光度観測は、ジャーナル、天文同好会の会報、商業雑誌など様々な場所に散逸的に掲載され、利用者にとっては不便な状態にあった。これらのデータを一元的に収集し、同時に光度観測の方法についての議論を通じてデータの質の向上を図ることを目的として1979年に創刊されたのが The International Comet Quarterly (国際彗星季報、ICQ) である。ハーバード・スミソニアン天体物理センターに事務所をおき、主宰者であるダニエル・グリーン氏が、データの収集と本誌の発行(年4回)、Comet Handbook と称される位置推算表集の発行(年1回)、国際会議の開催などを行っている。収集されたデータは本誌に掲載される他、研究者から要求があれば無償で提供される。

本発表ではプロとアマチュアとの協力という観点から、

- (1) これまでに収集された13万件を超える光度観測の大半が、日本を含む多くの国のアマチュア観測者によって行われてきたこと
- (2) 1990年より始まった観測コーディネーターシステムによって、ICQ事務局へ報告されるデータのミスが減少し、事務の分散化で掲載までの時間が短縮されたこと、観測コーディネーターの大半はアマチュアが務めていること
- (3) データの一元化により利用が容易になった結果、プロの研究者によって、ICQアーカイブを利用した多くの論文が発表されるようになったこと

について紹介する。